

2012年度日本天文学会研究奨励賞授賞理由について

2012年度日本天文学会研究奨励賞の授賞理由につき、以下の通り報告いたします。

第24回 研究奨励賞 【3氏】

坂井 南美氏：東京大学大学院理学系研究科ビッグバン国際初期宇宙研究センター・助教

研究テーマ：「低質量原始星天体における暖かい炭素鎖化学の提唱とその進展」

授賞理由：

恒星と惑星系の形成、中でも、星間雲から惑星系に至る過程を理解することは、宇宙における物質進化を知ることであり、生命の起源にもつながる重要な研究課題である。坂井南美氏は、野辺山45m電波望遠鏡をはじめとする国内外の大型電波望遠鏡を用いて、低質量原始星の誕生に伴う化学組成の変化に着目した研究に従事してきた。特に、低質量原始星における「暖かい炭素鎖化学」の提唱、低質量星形成領域における炭素鎖分子負イオンの発見、冷たい分子雲における ^{13}C 同位体種の異常希釈の発見など、星惑星系形成過程の理解を大きく進める重要な発見をした。その優れた業績により、坂井南美氏に対して、2012年度研究奨励賞が授与された。

田中 賢幸氏：東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構・研究員（Distinguished Postdoc）

研究テーマ：「遠方銀河団における銀河種族とAGN活動性の進化」

授賞理由：

一般の銀河やその集団である銀河団が、どのような形成進化を経て現在見られる形態や構造を持つように至ったのか、またそれは銀河環境などによって違いがあるのかを明らかにすることは最重要課題の一つである。田中賢幸氏は、銀河進化の系統的な観測研究、特に遠方銀河の形成進化に関する独創的な研究を推進してきた。特に、すばる望遠鏡等を用いた銀河進化の大局的描像の研究、原始銀河団の発見、星形成銀河とAGNとの分離など、銀河進化の本質に迫る重要な発見をした。その優れた業績により、田中賢幸氏に対して、2012年度研究奨励賞が授与された。

細川 隆史氏：東京大学大学院理学系研究科物理学専攻・助教

研究テーマ：「現在ならびに宇宙初期における大質量星形成過程の研究」

授賞理由：

大質量星形成の解明は天体物理学に残されている重要課題の一つである。細川隆史氏は宇宙初期と現在の銀河系という大きく異なる環境での大質量星形成を理論的に研究し、優れた成果を上げてきた。特に宇宙初期の初代星形成に関する研究では、初代星の質量はこれまで考えられてきた質量より一桁ほど小さく典型的には数十太陽質量であることを世界で初めて理論的に予言した。また、質量降着を伴う大質量原始星の進化モデルを初めて構築した。その優れた業績により、細川隆史氏に対して、2012年度研究奨励賞が授与された。

[トップページに戻る](#)